

9月中旬まき施設コマツナの有望品種の選定

宮澤直樹・馬場 隆  
(江戸川分場)

---

【要 約】 9月中旬まき施設コマツナでは、極立性で側根量が少なく、株張りも良好で葉が厚くカッピングが少ない「春のセンバツ」や、株張りが良好で葉が厚く、カッピング程度が少ない「里まつり」が有望である。

---

【目 的】

コマツナは都内における生産量が野菜の中で最も多く、基幹作物である。また、コマツナの品種は多岐にわたり、生産現場では品種特性の把握が困難である。そこで本試験では9月中旬まき施設コマツナの品種特性を明らかにし、有望品種を選定する。

【方法】

品種は16品種(表2)を供試し、2022年9月16日に近紫外線除去フィルムを展張したパイプハウスに条間14cm、株間5cmで播種した。施肥は全量基肥で、N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを7-5-5kg/10a施用した。雨天時は側窓を閉めて管理した。生育調査は10月12日(播種26日後)に行った。

【成果の概要】

1. 生育期間中の気象条件をみると、生育初期は台風14号の接近等により曇雨天が多かったが、生育中期である9月第6半旬と10月第1半旬は日照時間が多く、日平均気温も平年より高く推移した。生育後期の10月第2半旬は曇雨天となり、気温は平年を大きく下回る推移を示した(表1)。
2. 生育調査の結果を表2に示した。草丈は22.0~30.3cmであった。
3. 収量性について、地上部重/最大葉長の値が高く、収量性が見込める品種は「美翠、里きらり、春のセンバツ、いなむら、里まつり」であった。また、最大葉長の変動係数が小さく、特に揃いが良かった品種は「ひと夏の恋、江戸の小町、里きらり、里まつり、いなむら」であった。
4. 作業性について、極立性で側根量が少なく、収穫・洗浄作業の効率が良さそうな品種は、「春のセンバツ」であった。
5. 商品性について、SPAD値が高い品種は「里まつり、里きらり」であった。また、葉が厚く、かつカッピング程度が少ない品種は、「春のセンバツ、里まつり」であった。
6. 以上の結果から、本作型では、極立性で側根量が少なく、株張りも良好で葉が厚くカッピングが少ない「春のセンバツ」や、株張りが良好で葉が厚く、カッピング程度が少ない「里まつり」が有望である。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 作型や栽培年によって、生育や品質が異なることがあるので、留意する。

表1 栽培期間中の気温、日照時間の推移

月	半月	平均気温(°C)						日照時間		降水量(mm)	
		日平均		日最高		日最低		本年	平年比	本年	平年比
		本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	(hr)	(%)	(mm)	(%)
	4	25.6	+2.1	29.9	+3.1	22.0	+1.4	23	99	82	153
9	5	21.7	-0.8	25.1	-0.8	19.1	-0.6	15	70	80	255
	6	22.8	+1.0	27.6	+2.0	19.6	+0.8	40	159	1	7
10	1	23.2	+1.3	28.0	+2.8	19.4	+0.3	33	144	5	13
	2	15.9	-4.9	19.1	-5.4	13.2	-4.7	4	15	28	185

気象庁(江戸川臨海地点)のデータを使用。平年値は2012年~2021年の10年間の平均値を使用

表2 9月中旬まき施設コマツナの品種特性

No.	品種名	種苗 会社 <sup>a</sup>	最大葉長		地上部重		地上部重 /最大葉長	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	葉厚 (mm)	胚軸長 (cm)	節間長 (mm)	カッピング 程度 <sup>b</sup>	側根量 <sup>c</sup>	葉身長 /最大葉長	葉身長 /葉幅	草姿 <sup>d</sup>
			(cm)	c. v.	(g)	c. v.											
1	よかつた菜	カ	30.3	5.8	21.0	28.0	0.69	6.0	38.0	0.28	1.8	10.1	1.0	2.8	0.43	1.35	極立
2	神楽坂	ニ	28.6	3.5	24.4	18.2	0.85	6.4	40.5	0.30	1.2	13.2	2.0	2.1	0.47	1.36	立
3	美翠	ワ	27.9	5.5	26.4	22.0	0.94	7.4	40.6	0.30	1.5	13.8	1.4	1.6	0.46	1.31	立
4	こいしい菜	カ	27.7	3.9	23.4	16.3	0.85	6.9	38.0	0.31	1.3	9.5	1.3	2.3	0.43	1.36	極立
5	いなせ菜	カ	26.7	5.4	18.6	23.1	0.70	5.9	38.1	0.34	1.3	10.2	2.2	2.2	0.46	1.38	立
6	いなむら	サ	26.3	3.0	22.9	13.8	0.87	6.4	44.2	0.34	1.5	9.4	1.8	2.3	0.51	1.46	極立
7	浜ちゃん	ユ	25.6	6.2	18.3	22.2	0.71	6.1	42.6	0.37	1.6	12.3	1.6	1.4	0.44	1.28	立
8	春のセンバツ	ト	25.4	4.5	22.9	19.7	0.90	6.4	38.1	0.38	1.7	9.9	1.1	1.6	0.52	1.47	極立
9	陽翠	ワ	25.0	11.4	22.4	31.9	0.89	6.3	37.5	0.33	1.6	11.3	1.1	1.6	0.53	1.53	立
10	菜々美	タ	24.3	5.0	18.9	22.7	0.77	6.1	36.2	0.35	1.5	8.5	1.1	2.5	0.53	1.45	極立
11	江戸の小町	ニ	24.1	2.9	19.2	11.1	0.79	6.0	44.1	0.36	1.3	9.3	1.0	1.6	0.54	1.44	立
12	乃木坂	ニ	24.0	4.6	19.2	14.0	0.80	6.5	44.4	0.37	1.2	10.1	1.3	2.6	0.50	1.43	極立
13	のりちゃん	ユ	23.5	4.4	18.5	19.0	0.79	6.6	43.0	0.34	1.4	11.0	1.3	2.2	0.49	1.32	立
14	里きらり	ム	23.4	2.9	21.5	11.6	0.92	6.8	46.8	0.38	2.1	15.5	2.3	2.1	0.47	1.38	立
15	里まつり	ム	22.7	2.9	19.5	13.5	0.86	6.6	47.4	0.39	1.2	9.1	1.0	2.6	0.52	1.47	立
16	ひと夏の恋	ニ	22.0	2.1	16.8	8.4	0.76	5.9	42.8	0.36	1.2	8.1	1.0	2.1	0.52	1.27	極立

調査は1区10株、2反復で実施した。そのうち、各区の最大葉長が最大および最小の株を除き、各項目の平均を算出。

a)ニ(日本農林社)、カ(カネコ種苗)、ム(武蔵野種苗園)、サ(サカタのタネ)、ト(トキタ種苗)、ユ(雪印種苗)、ワ(渡辺農事)、タ(タキイ種苗)

b)カッピング: [Σ(指数×指数別株数) / 調査株数] 指数: 1(弱), 2(やや弱), 3(中), 4(やや強), 5(強)

c)側根量: [Σ(指数×指数別株数) / 調査株数] 指数: 1(少), 2(やや少), 3(中), 4(やや多), 5(多)

d)草姿: 極立~立~中~やや開~開